

事業の実施内容及び成果に関する報告書

1 事業名

2025年度 全国的なスポーツ大会開催 補助事業

2 事業の実施経過

① 蔵王防平ヒルクライム in やまがた2025 の開催

2025年5月10日 ネオシステムと契約締結

5月30日 第1回大会実行委員会開催

6月15日 参加者募集開始

8月15日 募集締め切り

8月22日 第2回大会実行委員会開催

8月29日 第3回大会実行委員会開催

8月30日 前日設営

8月31日 大会当日

9月 1日 看板などの撤収終了

3 実施内容及び成果

(1)実施内容

①蔵王防平ヒルクライム in やまがた2025大会の開催

山形県上山市の藤庄印刷蔵王の森工場をメイン会場として、宮城県蔵王町の刈田リフト駐車場をゴールとするヒルクライム大会。距離23.6km、獲得標高1404mと、国内最大規模の厳しいコースを「売り」にしている。今年も北は北海道、南は関東地方から130人が参加した。

また、例年コースが厳しすぎるとの声があったことから、今年は補助事業を受けて新たにハーフコースを設定した。

(2) 本事業の成果

①蔵王防平ヒルクライム in やまがた2025の開催

山形県内では本格的なヒルクライムレースは行われていないことから、本大会への参加を目標とすることで、多くの自転車愛好者、各地で活躍する選手のモチベーションアップにつながった。また、山形県外からの参加者（全体の52%）により、宿泊や観光振興にもつながった。地元自治体である上山市と連携し、本事業を契機に上山市内を自転車で回るスタンプラリーイベントともコラボした。

(3) JKA補助事業としての効果

補助金をいただいたことから、これまで実行委員会メンバーの手作りだったチラシ、ポスター、プログラムの印刷をプロの印刷業者に依頼することができた。参加者アンケートによると、大会を認知したきっかけに印刷物を上げる人が4割に上がった。これは過去最高の数字。

また、これまでコストの面から実施できていなかったハーフコースの実施を行うことができた。

4 今後予想される効果

① 蔵王防平ヒルクライム in やまがた2026の開催

新規参加者が全体の4割に上がった。過去2回以上参加（今年で3回目の参加）した人は35%ほどに上っているため、来年以降の参加者増が非常に期待できる。参加者が増えることで補助金に頼らなくても自走できる大会運営が期待されることから、来年以降の参加者増に期待したい。

5 報告事項

補助金に頼らなくても持続できる大会運営にするようにとの指摘をいただいたので、広報に力を入れるべく、チラシ、ポスターの制作をプロに委託した。これによって新規に大会を認知して参加した人が4割に上がった。これは過去最高の数字となっていて、来年以降の参加者増に期待できる。

山形県内では、自治体が主体となって開催してきた自転車のイベントがコロナ禍を経て

軒並みなくなっている。本大会もコロナが大変だった2020年、2021年こそ休止したが、2022年から再開し、今年で4年連続の開催となった。

本大会を目標に日々の練習に取り組むも多く、また、徐々にボランティアの参加者も増えてきた。今年は過去最高の20人が前日と当日の設営・撤収を手伝ってくれ、大会を通じた人の輪が広がっている。この輪の広がりのなかから、新たな人脈を開拓し本業の仕事につなげている人もおり、経済的な面からも山形の振興に寄与していると考える。